

要旨 (Abstract)

本論文の目的は、ファミリー企業の業績に関して、収益性と安全性に着目し、ファミリー企業と非ファミリー企業の差を分析することで、ファミリービジネス研究の一助となることである。

背景としては、ファミリービジネスには負のイメージが付きまとっているにもかかわらず、近年、注目を集めている研究分野であるということが挙げられる。ファミリービジネスは、「創業家一族の好き勝手な経営」「ファミリー間での揉め事が企業に悪影響」「一昔前の経営体質」という負のイメージを持たれることも少なくない。一方で、FBNJ (ファミリービジネスネットワークジャパン) の調査によると、世界の企業の約70%をファミリー企業が占め、日本では約95%の企業がファミリー企業であると報告されており、ファミリー企業は世界経済、日本経済において大きなプレゼンスを有しているのである。それにもかかわらず、ファミリービジネスの研究にはまだ蓄積が少ない。業績に関する実証研究においては、ファミリー企業が非ファミリー企業に比べて優れているとする研究が多数存在するが、その逆の結果を報告する研究も存在し、結果は様々である。そのため、本論文は、先行研究やファミリービジネスを説明するうえでよく用いられる主要な理論を基に仮説を設定し、現在(2018年3月期)のデータを用いて、ファミリー企業の収益性と安全性が、非ファミリー企業のそれと差があるのかを明らかにするものである。

本論文では、日本の上場企業のうち、製造業の中で企業数の多い上位5業種687社を対象に重回帰分析を用いて、ファミリー企業の収益性と安全性に関して分析を行う。また、追加検証では、ファミリー企業と非ファミリー企業という区分だけではなく、ファミリーが所有にのみ関与する「ファミリー所有企業」、ファミリーが経営にのみ関与する「ファミリー経営企業」という分類も追加して分析を試みている。

そして、分析の結果、ファミリー企業は非ファミリー企業に比べて、収益性に関しては差があるとは言えないが、安全性に関しては優れていると言えるということが支持された。また、収益性に関する追加検証①では、ファミリー企業に加えて、ファミリー所有企業、ファミリー経営企業においても非ファミリー企業との間に収益性の差があるという示唆は得られなかった。さらに、安全性に関する追加検証①では、所有・経営の両面に関与するファミリー企業だけではなく、所有にのみ関与するファミリー所有企業においても、非ファミリー企業に比べて安全性が高いという結果が得られた。しかし、ファミリー経営企業に関しては、安全性の面で非ファミリー企業と差があるとは言えなかった。これは、ファミリー企業とファミリー所有企業は、ファミリー経営企業と異なり、所有面でファミリーが企業に関与していることが1つの要因であると考えられる。ファミリー企業とファミリー所有企業は、ファミリーが株式を保有することで、企業を所有している。そのため、「自社」＝「家(財産)」という思いが強く、SEW理論における非財務的な効用が発揮されることによって、安全性が高くなるのではないかと考えられる。

一方で、追加検証②では、SEW理論を根拠に、ファミリー企業は長寿になるほど同年代の非ファミリー企業より安全性が高くなると仮定して分析を行ったが、仮説通りの結果は得られなかった。この分析では、事業承継に関する点が考慮されていなかったため、その点を考慮して分析を行うことで、より精度の高い検証結果が得られる可能性があり、これは今後の課題である。